

ことぶき共同診療所だより

第 45 号

2018 年 7 月 7 日 発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目 次

- 2018 年上半期をふりかえる 鈴木 伸 ②
- デイケアなう 大塚るみ、デイケアメンバー ⑥
- “診療室から” (41) - リスペリドン - 勅使川原 香世子 ⑧
- 寿町関係資料室コレクション 松本 一郎 ⑨
- 【6】横浜市ことぶき学級・スラム対策研究会『横浜市ことぶき学級の記録』 -
- 寿町地域ニュース・あらかると(’17年11月～’18年6月) .. 松本 一郎 ⑪
- 故田中俊夫氏の 3 回忌に寄せて 石山 春樹 ⑫
- 診療所日誌(’17年12月～’18年6月) 矢島 雅子 ⑬
- 共同診療所・鍼灸院ガイド ⑭



2018 年上半期を ふりかえる

【はじめに】

今年も気が付くと、「あっという間に」半年が終了しました。この巻頭エッセイも毎回この「あっという間に」からスタートすることが多いのですが、なぜ「あっという間に」という感じが年々強くなるのか？ということに関しては、漠然と疑問に感じながらも深く追求することはありませんでした。しかし先日、生物学者の福岡伸一先生の本を読んでいた「なるほど」という目からうろこの仮説に遭遇しました。

私たちが生きるということは日々様々な物質が「新陳代謝」を繰り返しているということに他ならないのですが、福岡先生の仮説は「時間の感覚」というものは、新陳代謝の速度の影響を受けるのではないかと、いうものです。新陳代謝速度が「速い」とその人の周囲の時間は相対的に早く進ように感じ、代謝速度が遅いとゆっくり進むように感じるというものです。

私たちが日常使う「時計の時間」は人間の代謝と関係なく「一定」で進むために、「代謝が早い」＝「時間の感覚が早い」人は「時計の時間」が経つのがゆっくりと感じ、「代謝が遅い」＝「時間の感覚が遅い」人は「時計の時間」が経つのが早く感じるということです。



イラスト Nむらさん

調べてみると通常人間の1歳の赤ちゃんは60kcal/kg/日の基礎代謝で、60歳だと20kcal/kg/日のことです。

先の仮説が正しければ1歳の赤ちゃんと60歳の大人では3倍もの時間の感覚のギャップが生まれることになります。

というわけで「あっという間に」感覚が日々強くなっていくのには、自分の代謝速度が徐々に落ちている(＝老化)が背景にあったという説明に「ガッテンだ」と心の中で叫びつつ、しかし、何とも言えない寂しさを感じる私でした。

というわけで、上半期に起こった診療

所の日常をふりかえってみたいと思います。

【忘れえぬ人 癌でなくなる方がふえてます】

寿町では以前に比べて寿命が長くなっております。が、その結果癌で亡くなる患者さんが多くなりました。以前は癌になる前に亡くなるかたが多かったということでもあるのですが。

3月に進行がんで亡くなったTさんは、診療所は10年以上通っていた患者さんでした。アルコール依存症で、ウェルニッケ＝コルサコフ症候群を併発し、長期に精神科病院に入院したのち退院して簡易宿泊所に退院となりました。記銘力の低下が著名で、退院直後は診療所と自宅の数十メートルの道もなかなか覚えられませんでした。訪問看護で見守ってもらいながら抗酒剤を飲むために毎日診療所に通ってもらうことになりました。当時私は精神科の研修を始めたばかりで、教科書に「ウェルニッケ＝コルサコフ症候群は治らない」と書いてあったので、「これからTさんはどうなってしまうのだろう」と暗澹たる気持ちでおりました。しかし、毎日診療所に通っているうちに記銘力は徐々に回復。1年も経つと短距離の道は覚えられるようになり、徐々に行動範囲も広がっていきました。アルコールのために自分がこのような状態になってしまっ

たことは覚えていて、「酒はもうやらないよ。ほんとに飲みすぎた。」としみじみ語っていました。数年経つうちに話す内容も徐々に豊かになっていき、大好きなラテン音楽について診療所のスタッフに楽しそうに語るようになりました。「よくなってよかった」と思っていたその矢先に食欲がないと訴えるようになりました。念のためと思い消化器内科で精査したところ胃がんが見つかりました。しかもかなり進んでいるために手術はできないとのことでした。安心して最後が送れる場所として入院を勧め1年が経ちました。今頃Tさんはどうしているのだろうか？とふと思っていたところ入院先の病院から「状態が安定しているので退院させます」との連絡が入りました。「えっ？」と耳を疑いましたが、果たしてTさんは簡易宿泊所にもどってきたのでした。胃がんに対しては治療はされていないとのことでしたが見た目は入院前よりも元気でした。以前と同様に診療所に通ってもらうことになりましたが、あまりに元気なために「進行性の胃がんっていついたけど、『癌もどき』だったのかな？」などと希望的に思っておりました。そう思ったのも束の間、Tさんの病状は徐々に悪化していきました。しばしば貧血をおこし、何度か輸血が必要な事態となりました。胃がんはやはり少しずつですが進行していたようでした。「しんどい」ということで最後は再度入院した病院で永

眠されました。

I さんは喉頭がんの患者さんでした。若い頃は自作の歌で大手レコード会社からデビューもされていた方でしたが、どの違和感があり精査をしたところ喉頭がんが見つかりました。病院に入院したところかなり癌は進行しており手術で声帯を切除し、しゃべることが困難になりました。飲み込みも難しくなり経口での食事は困難、鼻からのチューブで食事や食べ物を注入するようになりました。退院前、病院からは「今後も経口摂取は困難なので毎日栄養剤や薬の注入をお願いします」とのことで I さんは戻ってきました。当初は鼻チューブからの注入で我慢していた I さんでしたが、次第に物足りなくなり、病院の主治医の指示に反して経口からの食事を自主的に練習するようになりました。当初食べたものが逆流してきてしまい、傍からみていて「やはりむりなのではないだろうか？」と思っていましたが止めることはできませんでした。が、T さんは努力のかいがあり次第に食べ物をうまく飲み込めるようになってきました。声が出ない I さんではありましたが猛烈な勢いで紙に文字を書きつけ、自分の言いたいことは主張されていました。私は I さんの生きようとする力に圧倒されるばかりでしたが病魔はひそかに I さんの体を蝕んでおりました。喉頭がんが再発し、徐々に状態が悪化。いたみが徐々に I さんを苦しめ

るようになりました。薬による痛みのコントロールもついに追いつかなくなり、あれだけ入院をいやがっていた I さんもついに「病院に入院したい」と紙に書くようになりました。緩和治療のために入院し、2 か月後に永眠されました。進行癌にかかりながらも最後まで自分の人生を全うされた T さん、I さんの 2 人と過ごした日々は忘れえぬ思い出となりました。

【依然猛威をふるう南京虫】

相変わらず寿町では「南京虫」(トコジラミ)が猛威をふるっております。特に、具合が悪く入院が必要な状態の人ほど、虫がたかっているような状態です。虫だらけな状態で病院に搬送されると入院できない場合もあり、当院としても患者さんの病状もさることながら、「虫は大丈夫か？」というのが大切なチェック項目となっております(もし、虫が大量にいる場合は、服を全部着替えたり、お風呂に入ってもらったりしております)。この虫問題はご本人だけの問題ではなく、寿町という地域の問題でもあるため、地域をあげての取り組みが必要な気がします。

【久々の大型新人新田先生来る】

当院は小さな診療所であり、当院で研修をしたいという方はめったにないのですが、今回、新たに研修医の先生を迎えました。新田慎一郎先生です。九州宮

崎の出身でソース顔のイケメンです。当院で研修医時代から修行をされ、東京や川崎、寿と様々な現場に神出鬼没、八面六臂の活躍を見せる熊倉先生の紹介で当院にやってきました。発達障害やアディクションの臨床に興味があるとのことで、今後当院にやってくるいろんな患者さんを診ながら研鑽をつんでいっていただければと思います。よろしくお願いします。

【俊夫さんが亡くなって 2 年経ちました】

今年の 6 月 23 日で当院の初代院長田中俊夫さんが亡くなられてからちょうど 2 年が経ちました。私はいまだに俊夫さんが亡くなったという実感がなく、今でも

その辺からふらっと現れそうな気がしてしまいます。また、私の患者さんの一人は死に場所を探して道を歩いていたところ「タナカトシオ」という人が突然タクシーで現れて、ご飯をごちそうされている間に死にたい気持ちが無くなったというような、うそのような本当の話があり、まんざら私の感覚も間違っていないのかなと思ったりにしております。

生前俊夫さんが掲げた「敷居の低い診療所」という目標を今一度初心に返ってかみしめながら、診療所スタッフ一丸となってこれからも頑張っていきたいと思えます。皆様の協力、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

（鈴木 伸）



イラスト Nむらさん

デ イ ケ ア な う

今回、今年の1月から5月までの振り返りを行い、デイケアでみんなが感じていること、伝えたいことを書いてもらいました。それはデイケアのプログラムの感想や、デイケアに通うようになって自分が変わった、変わったことなどです。

昨年からフリートークやテーマトークをプログラムに加えたのですが、みんな徐々に自分のことを話すようになり、メンバー同士プラスに影響しあっている印象があります。デイケアに集うメンバーの事を「仲間」と感じられるようになってきたからこそ、自分の弱い部分や病気のことを話せるようになっていきます。トークのなかで「こういう事に困っている」といった発言があると、「自分はこうしているよ」とか「こうしたらいいかも」という風に意見やアドバイスが出てきます。このようにメンバーの悩みを共有して一緒に考える事ができるようになってきました。アルコール依存症や統合失調症など一人ひとり病気や抱えている悩みは違うけれど、生きづらさを感じているのは同じだということを理解していく場になっています。昼食づくりも昨年から参加型にしました。上手に作る事が目的ではない事を伝え、メンバー同士が会話しながら助けたり助けられたりして仲間としての絆が生まれてきています。スポーツのプログラムでもそういった雰囲気があり、得意な人もそうでない人もその場を楽しんでいます。いろんなところですごく変わったと思う今日この頃です。

(大塚 るみ)

お茶

自分は自分自身の為に好きで作業衣を着用して取り組んでいる。和の心を少しでも知るために、そして礼儀を知るためにと思い、これからも取り組んで行きたいです。(Y. W)

お茶菓子がおいしいです。(S. A)

美味しいお茶が飲めてありがたかったです。(K. I)

しらふの会

断酒をするように。一日一日飲まないように。(M た)

大変いいお話だったのでお酒が止まっています。(K. I)

分かりやすい司会とテーマで土曜日の午後2時から参加しています。特にアルコールの話に耳を傾け、飲んではいけないという気持ちになります。(U. K)

断酒をすることが第一です。希望を持って生活を続けるのが一番かな。希望はあなたを捨てません。あなたは希望を捨てますか。頑張りま

しょう。(H. T)

お菓子がおいしい。(E. A)

大掃除

お皿1枚1枚を丁寧に拭きとり、食器棚が大変きれいになりました。(S. H)

餅つき

毎年1月にろばの家と合同で楽しく餅つきを行い、雑煮を作り、共に食事をして楽しい時間を過ごしています。(N むら)

ひまわりの会

当事者が日々の困りごとや不安などを各自出し合って、そのことの原因を知り、皆で話し合って解決していく勉強会を行っています。(N むら)

自分自身の目標で困っていることを話し合って、他の人から見た自分の欠点を見つけてもらうことによって解決していき、少しでも前に進むことができるように話し合っていければ良い会になると思います。(Y. W)



勉強になりました。(K. I)

一言でいうと不安ではありますが、期待でもあります。まだやってないのでどういう風になるのかわかりませんが、皆にとって良い方向に進んでいったらもっと楽になると思います。メンバーたちがいろいろ困っていることを言い合い、その中で一つのことを深く話し合う。弱い部分話すのはなかなか勇気がいりますが、同じ病気を持っている人たちと話すからこそ自分のことを話せるんだと思います。(N せ)

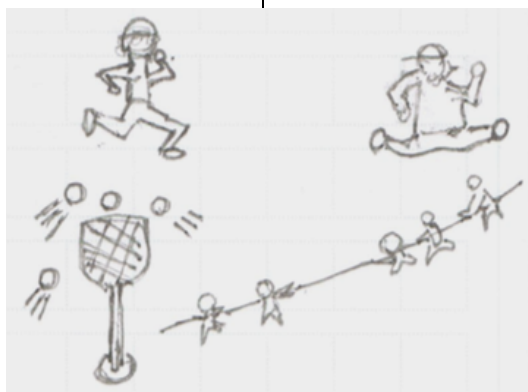
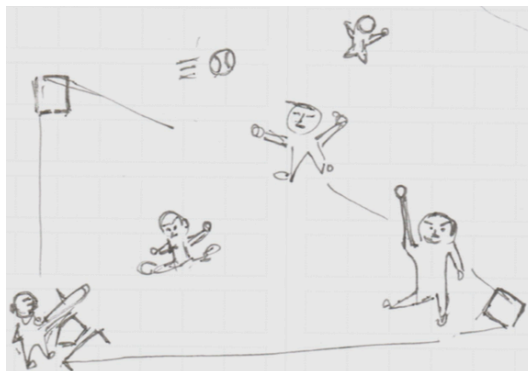
出来ることをすべてやる。それが目標。時間がかかってもいい事はあると思う。十分にやれる。(K ざき)

テーマトーク

自分の病気についてとか、今飲んでいる処方薬の効果や副作用などを調べていき知っていくテーマをやっています。普段飲んでいる薬をただ飲んでいる方が多いと思います。知っている人と知らない人では大きく違うのだとわかりました。昔は 14 種類を飲んでいましたが、今は 2 種類まで減りました。安定してきたのだとわかりますし、これ以上増やしたくないと思います。一人だとそうはなりません、デイケアのメンバーでやったからこそ、そういう風な気持ちになりました。勉強になりますし、重要なことなんだと思いました。(N せ)

フリートーク

自由に自分の思うことを話せる場があるのは大事なことだと思う。部屋に閉じこもって黙って過ごしていると、ストレスが溜まって健康に良くないし、このまま続けてほしい。(M. T)



悩んでいることがあって話をしたらスッキリした。(A. T)

デイケアに通うようになって変わったこと、変えられたこと。

1 年半前にデイケアに通うようになりました。最初は暗くネガティブな事ばかり言っていましたが、デイケアの職員やメンバー達と関わっていくうちに自分という姿が変わっていきました。昔と比べて明るくなり、心から笑えるようになったと思います。デイケアは自分にとって落ち着く場所であり、本来の自分の姿で居れる気がします。このままデイケアに通い続けて自分と同じような病気で苦しんでいる人たちが少しでも軽くなるように毎日勉強していきたいです。(N せ)

デイケアと作業所に通うようになって楽しくなった。(U)

デイケアに通うようになって、少しずつ自分自身が明るくなり始めました。苦手なことも少しずつできるようになりました。あ

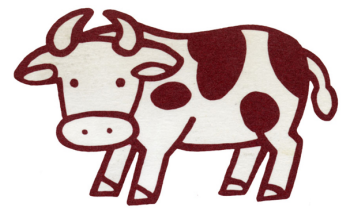
とコミュニケーションも少おうしだけできるようになりました。(I. I)

訪ねるようになって 1 年が過ぎ、初めは不安もあった日々も、新しい出来事、楽しみに変わり、毎日がうれしくなりました。今日も生きています！大塚さんにも感謝。(T. M)

人と話せるようになり、外にも自分から出られるようになって毎日が楽しく感じられるようになりました。(M. M)

本文中のイラストは、N むらさん作です。

“診療室から”(41)



リスペリドン

「ともちゃんはまるでリスペリドンだよ～」と、ある日、Aさんが受付の職員に言いました。リスペリドンはイライラや不安などの症状を和らげる薬です。

その日、Aさんは、朝から表情が硬く、落ち着きませんでした。診療所を出たり入ったり、診察室にあるベッドに腰かけたり、歩き回ったり。矢島さんが誘うと、モノづくりの得意なAさんは絵を描き始めました。絵をとおして会話が弾み元気になってきたAさんは、「ともちゃん牛を描いてよ」と頼みます。そして、Aさんはその牛を皆に見せながら、「ともちゃんはまるでリスペリドンだよ～」と満面の笑みを浮かべ、お帰りになりました。

こんな風に、リスペリドンの場、リスペリドンの人間関係があちこちにあったら、世の中には薬を飲まなくても済む人がたくさんいるのではないかと感じた瞬間でした。

でも、悲しいことに、リスペリドンの場・人間関係からは程遠い社会が広がっていることも事実だと、友人であるフィリピン人カップルとの会話から、しみじみと考える瞬間もありました。二人を寿へご案内するために待ち合わせた石川町の駅で、彼らは私に会うやいなや、物にあふれ経済的に発展した日本になぜこんなにも多くの路上生活者がいるのかと、涙ながらに話し始めたのです。経済の発展が必ずしも貧困を減らすことにつながるわけではないと、実感されたようでした。貧困はフィリピンの深刻な問題であり続け、都市貧困層はスラム街や路上などで生活しています。でも、フィリピンのスラムや路上に暮らす人びとと日本の路上に生きる人びととの間には、大きな違いがあります。それは、フィリピンの場合、独りぼっちではないということです。フィリピンでは、たとえ路上であっても、多くの場合、家族単位で暮らしています。そして、近隣者同士が状況を理解しあい、助け合っているので、一日の収入が1キロの米価に満たない場合でも餓死することは少ないのです（農村地域での干ばつや病虫害などの場合は別ですが）。フィリピン人の彼らには、裕福そうな人が行き交う雑踏の中でまるでいないかのように扱われる路上に生きる人びとの姿が、あまりにも痛々しく映ったのでしょう。

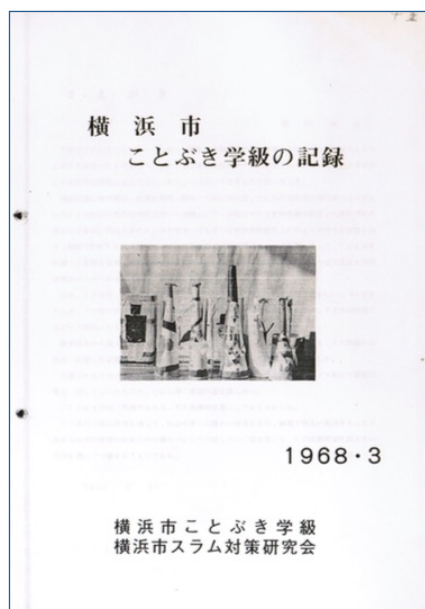
ここ寿にあるリスペリドンの場、リスペリドンの人間関係を、アメーバのように広げて行きたいと、また思うのでした。

(勅使川原 香世子)

寿町関係資料室コレクション

【6】横浜市ことぶき学級・スラム対策研究会『横浜市ことぶき学級の記録』

(1968 年 4 月 31 日、全 89 頁)



前回（本紙 44 号）は、「子ども会ぼっこ」の冊子を紹介したが、続けて 1960 年代の寿の子どもに関する冊子を紹介したい。残念ながら、所蔵しているものは原本ではなくコピーである。

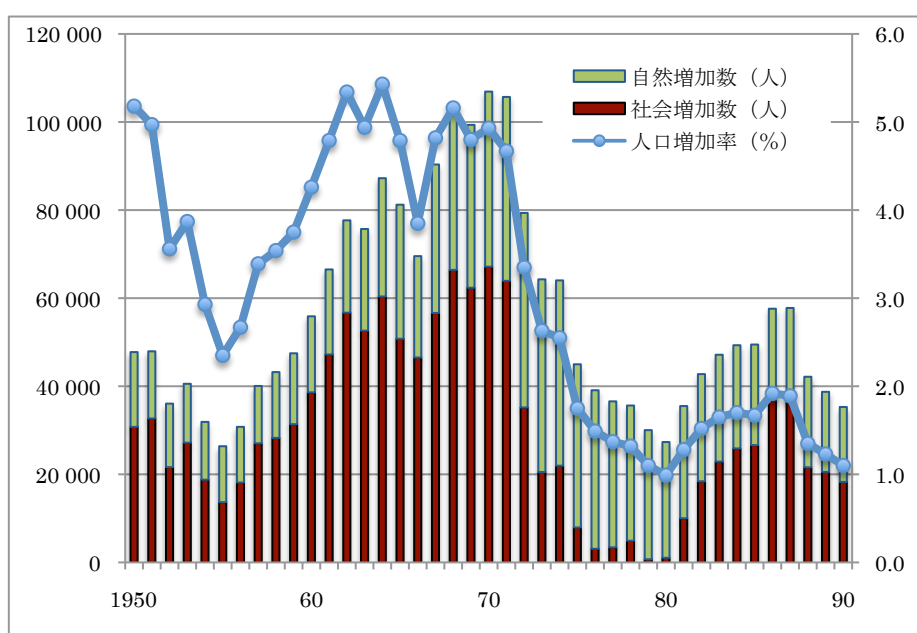
1963 年 9 月設置の横浜市青少年相談センター（以下、センター）は、少なくとも 2 つの団体を生み出す拠点・媒介機関となった。その 1 つが「ぼっこ」であり、もう 1 つが「ことぶき学級」であった。本冊子について紹介する前に、当時の寿の状況について、前回の説明を補足しておきたい。

1950 年代後半から約 10 年をかけて林立した簡易宿泊所はその数の多さから次第に凝集性が高まり、「日雇労働者の街」となった（あるいは社会的にそう見られた）。宿泊者は、仕事を求めて地方から殺到した若年の単身者世帯・有子世帯が中心であった。政府の低所得者層向け住宅政策の不備も相まって、1960 年代前半頃には子どもが 1,000 人を超え、3 畳前後の狭隘な簡易宿泊所の個室で有子世帯は暮らすことになった。

寿町の誕生と維持を貫くものは、大都市圏の国土開発・インフラ整備と貿易の発展にともなう日雇労働市場の形成であった。それは地方圏からの若年労働力の吸引によって実現した。

横浜市の総人口は、1952 年に 100 万人を、74 年には 250 万人を超えた。年平均 10% を超える経済成長率を達成できた高度経済成長期（1955-73 年）、横浜市の総人口は約 132 万人が増加し、この時期の人口増加がいかに急激であったかが分かる。寿町では 1956 年頃に簡易宿泊所が建ち始めるが、この流入人口の中に寿町を選び転入した人がいたことになる。

図表 1 で横浜市の人口動態を確認すると、高度経済成長期に地方圏からの大規模な人口流入による



図表 1 横浜市の人口動態（横浜市統計ポータルサイト「人口動態と年齢別人口」より作成）

「社会増」（地方出身者が「横浜人」「はまっ子」になる）が顕著に見られ、遅れて「自然増」（「はまっ子」として産まれる）が見られた。この時期、横浜市では 4% 超の人口増加率を記録した。つまり、横浜においては、若年人口の膨大な社会増が圧倒的な「人口ボーナス」となり経済成長に貢献し、（結婚、出産によって）膨大な自然増をもたらし、社会増が減り人口増加率が低下しても、横浜に定着した若年者によってしばらく自然増は続いた。

さて、ここからが本題である。1960年代の寿の子どもや家族の状況について田中俊夫氏は、次のように述べている。

当時の子供達の状況は、①数が多かった。②未就学、非就学の子が多かった。③全体に活気があった。等が特徴としてあげられる。寿ドヤ街の歴史自体が10年程度であり、当然子供達の大部分はよその土地で生れ、両親に連れられて寿へ流れて来たのであった。当時、仕事はいくらでもあり、働き者の若い両親達はよく働いた。生活保護を受ける者は少なく、受けても傷病による短期間の場合が多かった。生活保護の存在自体、それほど知られていたとは思われず、結核等手遅れになる場合もしばしばであった。街は活気にみちていたが、両親は労働や生活にいそがしく、現在のようなスペースの広い部屋(6畳、市営住宅)もめったになく、3畳一間に一家4~5人で生活するのが普通だったので、子供達は必然的に外に出て街の中で遊び、夜の9時、10時迄外にいる子供も多かった。

出所：田中俊夫「寿町の子供に関する活動の歴史」(ほんやらどう編『学校・家庭・地域からみた寿の子供たち』(1985年))

寿の子ども達の多くは周辺の南吉田小、富士見中などに通っていた。だが、住民登録の届出や出生届が行われておらず、学籍がない子ども、学籍があっても長期欠席している子どもも暮らしていた。周辺の学校に通学していても、日雇労働の不安定性、居住環境・学習環境などの影響で、寿で生活する子ども達と保護者は、一般地区と比べて社会的な不利を被っていたであろう。

こうした中、1964年8月、民生委員(木下陽吉氏と思われる)が長欠児・不就学児童の名簿(11名)をセンターに提出した。センターでは、8月下旬に保護者から聞き取りを行い、9月に簡易宿泊所居住の不就学児童を対象とした「指導教室」(センター4階のプレイルームを使用して、週4日午前中のグループ指導)を開設した。ここでは、「グループワーク的なゲームやスポーツなどが主体で勉強は二次的であったが、ときに、国語、算数、理科、社会等の基礎的な科目を主に、また、情操面を養う意味で図画やねんど細工なども行なった。さらに、1日15分~30分ぐらい話し合いの時間を設け、そのときどきの話題や各児童の家庭のことなどを話し合ったりした」という。

こうして同年11月1日には、横浜市教育委員会の全面的な協力のもと、若い派遣教師2名を配属し、12月15日より旧職安の2階を使用して、「埋地地区における怠学、長欠、不就学児童生徒に対して、教育的営みの中に積極的に参加させることにより、正常な[マ]学校へ復学させること」を目的とする「ことぶき学級」が設置されることになる。これは保育園・幼稚園・学童保育ではなく、時間割に従って教科を教えていく本格的な学校であった。周辺の小中学校での不就学については、その小中学校に責任があったが、何らかの限界があったのであろう。市は子ども達が来やすい寿の中心に設置したのであった。

1965年1月からは給食も始まり、「給食が始まると、徐々に欠席も少なくなっていたようである」と本冊子には記されている。学校における給食の意義は、食事の提供以上の効果を生み出していることが分かる。また、65年度には成績表を含む通信票も配布している。イベントも多く、クリスマス会、学芸会、江ノ島ドライブ、潮干狩り、海水浴、ハイキング、遠足などが行われた。

学校とはいえ、必要に応じたユニークな活動も行われた。例えば、1964年12月16日からは集団で銭湯に通う「入浴指導」が行われている。子どもの指導にあたっては、「子どもの性格や家庭環境、子どもの個々の問題について、具体的に十分把握して行」い、保護者に対するアプローチについては、週1の家庭訪問、保護者への来級の促し・入級の呼びかけなどのコミュニティワークが行われた。

ことぶき学級の入級者の推移は図表2のとおりである。ことぶき学級は設置されたばかりの寿生活館2階に、1965年6月18日に移転しているが、65年度がピークの45人で、66年度には27人に減少し、67年度には6人となり、児童のほとんどが南吉田小、富士見中などに復学した。ことぶき学級は約3年に渡る取り組みを行い、67年9月に閉鎖となった。

横浜市は、ことぶき学級を設置することによって集中的に教育と生活指導を行い、一般的な学校への移行を橋渡しした。前号で紹介したように、並行して、子ども会「ぼっこ」の活動も行われ、相乗効果となったであろう。加えて、寿生活館への引き継がれていた過程も重要である。

本稿のことぶき学級に関する事実関係や記述は本冊子に基づいているが、その他にも、こどもの様子や教育・生活指導の様子が詳細に記録されているため、当時の寿の子どもや保護者の生活状況を知りたい人には手にとっていただきたい一冊である。

図表 2 ことぶき学級への入級者数(1964 年 12 月-67 年 9 月)

年齢	5～8	9～11	12～15	計	再入級
64 年 12 月 15 日～65 年 3 月 31 日	5	14	7	26	0
65 年 4 月 1 日～66 年 3 月 31 日	27	11	7	45	7
66 年 4 月 1 日～67 年 3 月 31 日	13	10	4	27	1
67 年 4 月 1 日～67 年 9 月 1 日	2	3	1	6	2
計	11	38	19	104	10

出所：本冊子より作成

寿町地域ニュース・あらかると

(’17年11月～’18年6月)

【国の貧困対策関係】＜厚労省関係＞新たな支え合い・分かち合いの仕組みの構築に向けた研究会第 3 回開催[’17.11.7]／生活困窮者自立支援及び生活保護部会報告書とりまとめ／生活保護基準部会報告書とりまとめ／「平成 28 年度 全国ひとり親世帯等調査」公表[以上、’17.12.15]／生活保護世帯の 67%で保護費が減額になる 2018 年度予算閣議決定[’17.12.22]／生活保護法関連 4 本改正法成立 [6.1]＜国交省・厚労省関係＞住宅宿泊事業法(民泊新法)施行 [6.15]【センター(寿町総合労働福祉会館)】鉄筋が林立し地上の建築進む[6.1 現在]【保育所】寿福祉センター保育所の建物が解体され更地となる[5 月現在]【人口】’17 年 11 月現在寿町人口 5,728 人、2 年連続で 6 千人を割る、また高齢化率は 57.5%で過去最高を更新(寿福祉プラザ相談室調べ)[1 月公表]【子ども】「かながわ子どものみらい応援団」発足 [’17.11.28]【簡易宿泊所】HOTEL しらゆき(元白雪荘・浜一ビル。扇町 4-11-2)7 月 1 日オープン予定。「先着 4 畳 1,700 円～」 「全館バリアフリー」「車いす OK」「オストメイト完備」「大型テレビ 32 型」などと掲示あり／GUEST HOUSE 「La Cava」(元白樺荘) 改装中／(仮称)松影町 4 丁目簡易宿泊所(元大丸ビル。松影町 4-14-9,14-10)建替新築中／(仮称)扇町 4 丁目簡易宿泊所(扇町 4-12-2・12-3)新築中[以上、6 月現在]【はまかぜ】タバコの配給が終了[3 月末]【喫茶食事】チャップリン閉店[4 月]、インドダイニング&バー「サティー」となる[5 月]／社会福祉法人みはらし「ポンテカフェ寿店」金岡ビルでスタート(300 円ランチ、100 円ドリンク)[5.22～月 1 回火曜 11-14 時]

※ 寿町に関係する国・自治体の政策等も一部含まれます。

(寿町関係資料室 松本 一郎)

故田中俊夫氏の 3 回忌に寄せて

前略 早いもので Dr.田中氏がこの世にいらなくなってから、今月の 23 日で2年になります。3 回忌をやらないという事なので、ここで自分のあまりにもつたない文章でまことに申しわけありませんが、Dr.田中氏が死亡した日が、自分の母親の命日と同じだと言う事に何か目には見えませんが、因縁めいた事だと自分では思いますし、この世の中でおきていることで人間の力でできる事には限度がありますが、神や仏のやる事には限度がありません。

最初に田中氏に出会った時には、本当にこの先生で大丈夫かなと思いましたが、初対面の第一印象などでその人を判断してはいけないんだと言う事を、その年の冬の相談所で、田中氏の、どんな人でも具合の悪い人を診ている時の先生の目を見て、この人なら自分の事も真剣に相談していけば何とかかなと思いました。

自分も今まで 56 年間生きて来て、色々な人達に会っていますが、自分に金を借りる時だけつきまとう人もいた。先生には話していますが、自分はある組の本家(現在は総本家)に当たりますが、そこにいたことも全部話をしましたが、他の人とは違って笑わなかったんですよ。「むしろ君のような人達こそ、そういう世界と縁を切り、その日その日をやっと暮らしていく、初めはね」と言われました。「だんだんと周りの人達にも信用されるようになるんだよ、石山春樹君、いいかね。君も男なら死んだ気になれば、何でも出来ると言うがどうかね、君も一つ自分なりでかまわないので、できる事からやってみる気は無いかね」と言われ「自分みたいなゴミのような人間に出来る事がありますか、先生。」と聞くと、「あるよ」と言われ、「それは君が今までのように闇社会の人間の力に頼らずに自分一人の力で毎日普通の暮らしをしていく事なんだよ。確かに、半年や一年では無理かもしれない

よ、時間はかかるけどね、何事もやってみなければ分からないだろう、違うかね、石山君よ」と言われ、グッとくるものがありました。

最初の内は、10mくらい離れて話をしていた友人達も、今では困った事があれば「石山さん」あるいは「山ちゃん」「春さん、何とかしてくれないか」と言うようになった。

大阪にいた時は先輩に酒をおごった。この時はジャンキー(シャブ中で)の女性が裸足で両足に大けがをして、自分の所に泣きながら来た時は、さすがに切れた。その女性はある組の三次団体からシャブを買っていて「金が無く、子供を人質に取られているので、何とかしてほしい」と言われたので、「できる限りの事はする」と答え、先輩でありその組のある会の顧問をしている人をお願いをして、「先輩何とかお願い出来ませんか」と言うと、「君ほどの男の頼みであり、君の所にかくまっている人は素人なのだから、おれにいわせれば言語道断、話にならない。分かった。72 時間以内に子供を保護し、その三次団体は絶縁状を全国に回すので、それでがまんをしてくれるようにその女性に言ってくれ」と言われ、「先輩その人は両足の裏を切っているので病院に入院させたいのですが、自分には金が無いので」と言うと、「君は常にはないじゃないか」と言われ、次の日朝一番に高級外車が 20 台ほど来て、その女性と自分をのせて大阪で一番信頼のできる病院に入院させ、24 時間見張りを付けてくれた。大阪中の極道にお達しがあり、しのだ山は封鎖される日で、この件は終わり、めったに笑わないその女性が笑った時にはグッとくるものがあり、自分に出来る事がある。困った人に助け船を出すことが自分には出来る事だと知りました。いつまで生きられるのか分かりませんが、自分なりにできる事をしていきたいと思う今日この頃です。

以上石山春樹より

草々

診療所日誌

’ 17 年 12 月 ~ ’ 18 年 6 月

2017 年 12 月 年末…衰弱、肺炎などで 要入院だが、説得に苦慮する

- 6 日 山陰の入院先から夜行バスに乗り東京に向かったという情報の方、昼には診療所に現る。
7 日 骨折中の U さん、麻痺もあり全介助状態となるが入院拒否中。次の日にやっと白旗をあげる。
14 日 待合室にクリスマスツリーがやってくる。
15 日 忘年会です。今年もお世話になりました。
26 日 アパート転居したばかりの S さん、環境に慣れずか不安定になり入院。
29 日 年内最後の診療。DOTS の薬もお渡し済み、入院の心配の人もなし(?) かな。

2018 年 1 月 インフルエンザの波が今 年もじわじわと

- 4 日 支給日のためか、静かな年明けです。
19 日 やっとのことアルコール治療で入院した Y さん、直前に飲み納めをし、隔離病棟に入ったら“こんなところ、やだ～、自分で止める～”と自己退院。
24 日 市大から転院してきたターミナルの I さん、最期を在宅医に託すかどうかの相談あり。
27 日 N 大佐、亡くなる。
30 日 DOTS のコップを使い捨ての紙コップに変える。

2 月 入院が相次ぎました

- 3 日 先月の I さん、痛みが強くなり入院となる。
8 日 黄疸が出て入院した T さん、タバコが吸えないからと即日退院してくる。
10 日 野菜を作っていた病院嫌いの I さん、やっと入院。
27 日 元デイケアの Y さん、昨日転倒して救急車呼ばれるが搬送されず、レントゲン検査の結果骨折発見。

3 月 病院訪問ははじめました

- 2 日 ことぶき介護さんに大切に介護されていた O さん、衰弱と炎症反応もみられやむなく入院へ。
8 日 11 年 DOTS に通っていた T さん、入院先の病院で亡くなる。

- 10 日 Y さん、診察終了後、突然倒れ救急搬送。大動脈解離と。
15 日 本牧病院へお見舞い。たくさんの方がお世話になっています。
17 日 音羽食堂しばらくお休みの張り紙あり。常連客多く、心配。
23 日 T さん、入院させるとひとしきり騒いだ後、自分で警察を呼んでしまう。
1 日 ドアが開かないと管理人さんに通報されるシステムのドヤに住んでいる方が救急搬送されてくる。

4 月 春です。陽気が漂っています。

- 6 日 天田医師、火曜日から金曜日に診療日変更。
7 日 新田^{しんでん}医師、毎週土曜日勤務開始。
17 日 元デイケアの S さん、ドヤのトイレで亡くなっていた。
19 日 神奈川病院へ病院訪問
28 日 先日亡くなられた S さん、しらふの会でお線香をあげにいく。
30 日 「チャップリン」閉店。常連客もいっぱいいました。残念。

5 月 連休前の支給日、連休明けはいつ にも増して大騒ぎ

- 8 日 連休明け、皆さんのびのびと過ごし、入院予定 4 名。
12 日 インフルエンザ A 発生。
15 日 連休前から飲酒中の Y さん、本日はお巡りさんに部屋まで送り届けられる。
19 日 時々大虎になってしまう Y さん入院。連日神奈川病院にはお世話になります。

6 月 若い患者さんがじわじわ増えてい ます

- 2 日～3 日 デイケア稲子へ。今回は田植えではなく野菜の収穫。楽しみました。
5 日 タンザニア帰りの弓野医師みえる。
6 日 呂律が回らないと言っていた G さん、入院を勧めると“しゃべらなきゃ良かった”と。
7 日 M さん、“エンシュアだせ～”と大暴れ。
13 日 NHK の契約に各部屋を回っているとの情報あり。
14 日 1 人でいられなくなった M さん、コスモスさん 4 時から出勤。

(矢島 雅子)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科
内科 整形外科 鍼灸
診療所

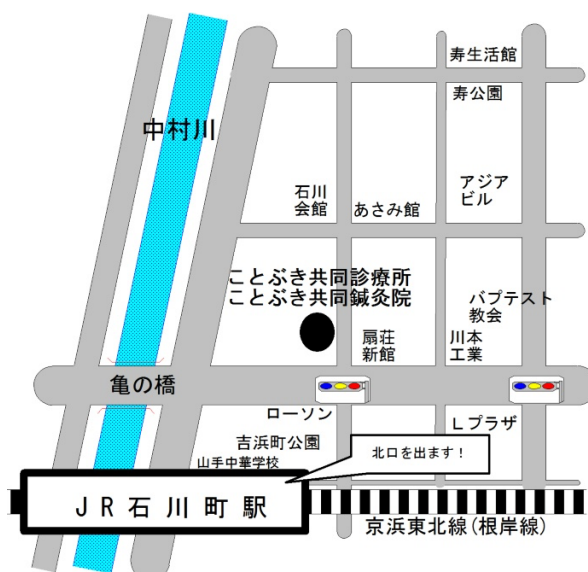
	9時30分	12時	14時	17時	診療科目
月	休診				
火	鈴木伸・天田・越智		鈴木伸・天田・越智		精神科・神経科・心療内科・内科
水	土屋・越智・渡部		土屋・越智		精神科・神経科・心療内科・内科
木	鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		精神科・神経科・心療内科・内科・整形外科
金	鈴木伸・土屋		土屋		精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・熊倉・鈴木美奈子(月2回・エコー検査)・野本(月1回)		←受付11:30まで		精神科・神経科・心療内科・内科

※12-14 時はお昼休み

鍼灸院 (鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時30分	13時	14時	17時
火	新井・鈴木		新井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井		新井	

※13-14 時はお昼休み



○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者総合支援法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

○心理判定

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)
(045) 305-4322 (鍼灸院)

◇e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>

2018年7月7日現在